

令和6年度 第2回川崎市社会教育委員会会議麻生市民館専門部会 摘録

■日時 令和6年10月8日（火） 午後2時0分～午後4時22分

■出席委員	麻生区地域教育会議議長（部会長）	井上 俊夫
	市民委員（副部会長）	濱田 富美恵
	麻生区町会連合会常任理事	岡倉 進
	市民委員	田澤 梓
	和光大学現代人間学部非常勤講師	角田 季美枝
	麻生市民館サークル連絡会	平出 圭子
	麻生区PTA協議会副会長	前村 嘉昭
	麻生区文化協会副会長	横川 博行
	（欠席）川崎市麻生中学校長	金子 三弘

■事務局 麻生市民館 土屋館長、管理担当 内藤係長、社会教育振興係 松本係長、照井
麻生市民館岡上分館 相澤分館長

■傍聴者 5名

■議事

（1）令和6年度の主な事業・工事予定について

事務局（松本係長、内藤係長、相澤分館長）

資料1・2に基づき説明

前村委員

若い世代の参加が少ないということについて、新しい事業を実施する際に、どのようなプロセスで実施しているのでしょうか。例えば、俳句の場合だと、明らかに若い世代の申し込みが少ないことは事前に想定できるかと思います。市民講師活用事業として、その方の育成という観点もあると思うがフォローアップとしても、こういったプロセスで行っているのかが気になった。

事務局（松本係長）

俳句の講座については、提案者が他のところでも活躍されている方ということもあり、企画内容についてはあまり手を加えていない。タイトルについては分かりやすいものにしようかとやりとりをしていた。

横川委員

麻生区は俳句が盛んな地域。俳句は結社単位で行われているが、どこの結社も高齢化により維持が難しくなっている問題がある。若い人に入って貰いたい状況だが、どこの結社も平日の昼の実施となっている。若い世代のことを思えば、土日じゃないと来られないと思うが、会場として土日は継続的に取るのが難しい状況。この講座も、地域全体として俳句文化を盛り上げていくためには必要で、応援できればと思う。

角田委員

「10代から」だと情報の届け方にも課題がある。地域教育会議やPTA関係の方にはお知らせされていますよね。

事務局（松本係長）

はい、市民館関係者の方々にはお知らせしています。それ以外の方、特に20代からの働いている世代へ情報が届けられていないという課題があると考えています。

前村委員

市民館が何をしているところかが伝わっていない。保護者世代でも、市民館の存在を知らない人の方が多いと思う。30代40代なども含めて、市民館自体をどのように認知していくか、検討していく必要があると思う。

岡倉委員

前村委員が言われていた、各講座の実施をどのようなプロセスで決めているか教えて欲しい。

事務局（土屋館長）

実施要綱に記載されている事業名の枠組みにおいて、各職員が事業内容を検討し、他の職員や係長・館長などと相談をしながら決めている。要綱に基づいて実施していくため、マーケティングに基づいた企画や、自由な発想という面では出来ていない部分もあると思います。

角田委員

要綱とマーケティングなどは相反するものではないと思う。逆に要綱があるから取っ掛かりとして進めやすい側面もあるのではないかな。

前村委員

先ほどの発言としては、講座内容というよりも、「若い人を集めたい」という講師側のニーズにどのようにフォローしたかというプロセスのこと。失敗しても良いとは思いますが、結果をどう受け止めて、次にどう活かすかなど、一連のプロセスで活かしていかないと勿体ない。

井上部会長

各事業・講座の内容について審議していくことは、この専門部会の役割でもある。

岡倉委員

実施要綱を変えていくことは必要だと思うので、検討して欲しい。

事務局（松本係長）

これまでも社会や川崎市の状況から改正を繰り返している。色々と御意見いただいているように、現役世代へのアプローチが弱い面があるので、考えていきたい。

角田委員

岡上分館のボッチャについて、3回の実施を計画していたが、1回が中止になった。再実施の計画はしないか、予算はどうなるのかなど、提案団体とのやりとりも含めて教えて欲しい。

事務局（相澤分館長）

中止となった時点で再実施の話を提案団体で行ったが、会場の市民館の予約状況と提案団体のスケジュールとして再実施は難しいということになった。未実施となるため、予算はその分戻入という対応になる。申込も多く手応えもあり、提案も3年目で最終年でもあったため、団体としても分館としても残念な結果となってしまった。

(2) 令和6・7年度協議テーマの選定について

井上部会長

資料3に基づき、前回の振り返り。

専門部会の業務分掌として、市民館が実施している事業の調査・審議も役割となっている。

角田委員

令和8年度からは指定管理者による運営になる。麻生市民館がどうあって欲しいかなどの検討を始めていった方が良くとも思う。その上で、指定管理者への委託の仕様書や、事業の実施要綱などをどのように書くか意見を言えれば良い。ただ、川崎市全体の話なので、変えるのも難しいとは思うが。

岡倉委員

指定管理になった際に、現状ルール化・文書化されていないようなところをどのようにするか。例えば、サークル連絡会と市民館との関係など、これまでは文書化されていない関係性も、指定管理になったときに「市民館は関係ない」となってしまうのではないかと。

濱田副部長

今どんな課題があるか、どんなニーズがあるか、市民館をどう使いたいかなど分からないことが多い。専門部会として、現状を共有していくことも大切だと感じた。自分としてはPTAの家庭教育学級の講師派遣や、地域教育会議の取組に注目している。PTAなど、地域への広がり可能性を感じるが、他方、PTAが組織として無くなっている学校もあったり課題もあり、それぞれがバラバラなので後ろから支えていけると良い。西生田中学校の家庭教育学級が参加者が多く、区PTA協議会が共催で、全区のPTAを対象として市民館の大会議室で実施したが、250人と大勢の参加だった。内容としては進路説明だったが、関心の高いプログラムだと参加が多いということが改めて分かった。何かをやりたい市民も大勢いると思う。

前村委員

以前、虹ヶ丘小学校のPTA会長をしていたが、虹ヶ丘小学校は世帯数が120世帯で、講師派遣事業などでやりたいアイデアがあったとして、マンパワーがなくて事業を回すことが出来ない。各学校が従来の枠組みでは、回していくことが出来なくなっているという現状。一つのイベントに一つの学校で従来のような手を掛けられないのであれば、相乗りをしたら良いのではないかと。このことで、西生田中学校の家庭教育学級で区PTA協議会として共催させて貰った。地域教育会議など他の組織でも同様の課題はあると思う。市民館も、従来の枠組みの中でサポートをしていくだけでなく、既存の枠組みをどうすると上手く回るかなどの視点でサポート出来ると良い。

濱田副部長

私も以前、西生田中学校のPTA会長をしていたが、委員決めの際に毎年なかなか委員が決まらない状況だった。今年度は委員を廃止して、LINEオープンチャットでアナウンスする方法に変更となった。今回の家庭教育学級も、オープンチャットでの呼び掛けから実施に至った。ツールや考え方が変わっていく状況で、従来の枠組みに捉われないような取組を進めていく必要があると感じる。市民館としても、そうしたサポートが出来ると良いと強く感じた。

角田委員

事業報告の中で気になったのは、子どもの権利については参加者が少なく、性教育は参加者が集まるということ。子どもの権利に関心が低いというところは課題だと感じる。そうした部分をどのように育てていくか。市民館が頑張る以外に、こども文化センターや小学校、地域教育会議なども重要で、そうした関係する組織のコーディネート機能を市民館が担うことも必要ではないかと感じる。事業・講座を実施するだけでなく、「まちに飛び出す市民館」として、コーディネート力を培っていく。指定管理になると、いま市民館にいる職員は、区役所で仕事をする事になり、市民館や区役所の他部署との連携なども役割としてあると思うし、やれることも広がっていくのではないかな。

横川委員

市民館・大会議室を借りるときに、高齢者世代は椅子や机を並べる作業が難しくなっている。舞台の上に横断幕を吊るのも難しい。ギャラリーも良い施設だが、高齢者になるとそこでの準備も出来なくなっている。高齢者のそうしたニーズはあるが、他方で高齢者世代が頭の切り替えが出来ていないところもある。例えば、「横断幕は舞台の上に掛けることになっている」などで、プロジェクターで投影させれば代替が可能なのに意識として変えられない。現状は市民館のスタッフからは「セッティングは各利用者で行っていただいている」と言われるだけ。利用者目線でのそうした困りごとを解決する術は無いかな。

田澤委員

どんな麻生市民館にしたいか、方向性が見いだせると良い。コーディネートの話や、世代ごとに助け合うような、今後、指定管理になっても継続できる仕組みが出来れば良いのではないかな。

平出委員

小学校・中学校との繋がりが必要と感じた。大人が子どもに教えるだけでなく、例えばスマホの使い方など子どもが大人に教えることも出来る。高齢者が会議室を利用する際にも、世代間で助け合いが出来たら素晴らしい。

麻生市民館独自の取組を考えると、他館に比べ、中庭スペースもあり自然もあるので、そうした面を活かすことは出来ないかな。例えば、遊歩道に俳句を配置して回遊するような仕掛けや、東屋で演奏会をしたり、中庭スペースを活かした使い方も出来ると良い。

岡倉委員

新たに地域連携の仕方を考えていくと、事業が変わっていくような気がする。学校・団体・企業など、様々なところと連携をして、そうした事業を評価するような仕組みがあると地域が盛り上がっていくのではないかな。

井上部会長

これまでの話しから、テーマを整理してみたい。①市民館を知らない人も含めた広報の仕方、市民館だより・ホームページなどを考えていく。②サークル連絡会などと市民館との関係性などルール化されていないところの連携を明確化させる。③事業・講座を企画する際のルール化の検討。④多世代の市民館利用の拡大の検討。⑤市民館のコーディネート力の向上。例としては子どもの権利などで関連団体との連携を図るなど。⑥どんな市民館だと良いかを考えてみる。

角田委員

指定管理の仕様書にも記載して欲しいと思っているが、いつまでに決まっていくのか。

事務局（土屋館長）

来年4月から指定管理者の募集を開始していくので、その時点では仕様書はオープンになる。

専門部会の審議スケジュールとは一致しないが、指定管理者は専門部会で審議された内容を事業に反映していくことが仕様書の中には盛り込まれるので、専門部会として協議していくテーマを仕様書に載せなくとも大丈夫だと考えている。

事務局（松本係長）

仕様書には、「〇〇に関すること」など抽象的な書き方となり、指定管理業者が決まった後に引き継ぎの中でやりとりをしていくことになると考えている。引き継ぎにあたっては、実施していない事業を引き継ぐということは難しいため、来年度までに実際にやっておくことが必要かと考えている。

角田委員

中原市民館や高津市民館の応募が出ていた際、仕様書を見たが、その区らしさというところは感じられなかった。事業者からの提案の中には盛り込まれているのだろうが、その部分を見ることは出来ない。市民としては、麻生区の課題や、こういった市民館であると良いというところは仕様書に盛り込めると良い。

事務局（松本係長）

専門部会としては仕様書に落とし込むのではなく、ありたい姿を目指すと良いのではないかな。

角田委員

麻生市民館だけでなく、岡上分館についても話したい。

事務局（松本係長）

話しが前後するが、若年層など幅広い世代に向けて謎解きイベントに手ごたえを感じている。遠方からの参加者も多かった。市民館とは関連が無くとも、人が集まるイベント・テーマ。

平出委員

市民館に何キッカケで入って来るのかというのがポイント。

事務局（相澤分館長）

岡上分館も謎解きイベントの場所の一つ。若い世代からよく「ここは何の施設か」聞かれる。また岡上分館は地元密着型の分館でありたいと思っており、地域の方が気軽に入れるような施設にしたい。現在、図書室の利用があまりされていないため、気軽に利用できることを掲示物や、地域のイベントをやっていきたいと考えている。この前は音を楽しむイベントを実施。他にも、図書室に郷土資料があり、それを活用した勉強会も検討している。指定管理者にも、図書室の使い方などを提案に盛り込んでもらいたいと考えている。

横川委員

「AI 俳句と俳句のこれから」というテーマで講座を行ったが、他の地域からの参加者も多いため、文化の発展には繋がるだろうが、地域のためになっているのかは分からない。

前村委員

市民館がやっていることを情報発信し続けることも大切。SNS など、情報発信をしていかないとなかなか人が集まっていけない。SNS でなくとも良いが、若い人をターゲットにする場合など何かそことの繋がりが必要だと思う。

田澤委員

小学校や中学校は、チラシを配らずにイベントアプリで告知するようになっているが、アプリにアクセスして見に行かないと、情報を見ない。目に入って認識しないと参加には繋がらないと思うが、イベントアプリ以外にも様々なホームページ、タウンニュースなどの紙面など情報は様々なところに散らばっている。そうした情報を上手く受け取れるようになっていくと、活動が広がっていくのかなと思う。

井上部会長

幸市民館で市民館ジャックのイベントをした際に、「何を見て来たか」アンケートを取ったら、アプリを見て来た人は3%。他はポスターやチラシ。まだ過渡期かと感じる。20代から50代までがウィークポイント。私も市民館を知らなかった。ホールがあるのは知っていたが、それだけだと思っていた。そういう面から、市民館をどのように広報していくか。

事務局（松本係長）

今年度から「ひとのわ」を進めているが、『何かやりたい』という人が徐々に口コミで市民館に訪れるようになっていく。人数は極わずかだが、現役世代も隙間時間にやりたいことを叶える場として、貢献できているのではないかと感じている。

井上部会長

テーマ選定の方向性だけでも決めていきたい。

事務局（松本係長）

こちらでやることを提示するのではなく、専門部会の皆さんがテーマを考え、それを基に市民館の取組としてフィードバック出来るのが良いと思う。

井上部会長

昨年度実施した一箱古本市については、今年度はどうするのか。

事務局（松本係長）

昨年度は、大きく利益をあげられた方もいる一方、全く売れなかった方もいた。また出展者の感想を聞いていて、市民館として、とりまとめて実施する難しさや課題も多いと感じている。

「ひとのわ」として一人、一箱古本市をやりたいという方がいて、スケジュール等が合えば実施するかも知れない。課題や上手く回る仕組みを専門部会で検討することも出来ると思う。

井上部会長

テーマの一つとして、一箱古本市を一回だけのやりっぱなしではなく、定着するような方向に出来たら良いのかなとも思う。

前村委員

一箱古本市を実施して、成功することや、課題があっても改善することは、事業全体のプロセスだと思う。そのプロセスは他にも活かせるもので、そうしたプロセスを上手く回していけるように考えていくことも重要だと感じる。市民館自体の付加価値を上げることに繋がると思う。

田澤委員

一箱古本市だけだと集客力はあまりないと思う。前は子育てイベントに付随させたから集客にも繋がった。他のイベントとの連携も考えられると思う。またその際に、例えば大学生にもボランティアとして一緒にやってもらうような、既存のイベントやサークル活動にもつなげられるような取組、繋がりや助け合いを進められるようなものになれば良いと思う。

濱田委員

昨年度の一箱古本市では、謎解きと同じように「一箱古本市」というキーワードで来た人が多かった。また、市民館を知らなかった人、広報が伝わっていない人も多くいた。こうした事業は一回だけでなく、複数回実施して、参加者や運営側も課題や効果を理解しながら進めていくことも必要だと感じました。

前村委員

古本については出したい人はいっぱいいる。出したい人をリストにして貯めておくことも後々イベント実施の際に活用できるのではないかな。

事務局（松本係長）

法律・条例などの面から、個人情報には1年以上保有できず、また事業が終わったら情報を廃棄することになっているため、不用意に個人情報を集めないようにしている。

岡倉委員

要綱の中に、「各区の地域性を事業に生かすこと」とあるが、この地域性を議論して整理することも必要だと思う。また、「修了後の自主的な活動に向けた仲間づくりに配慮すること」ともあるが、先ほどの個人情報の取り扱いの問題もある中で、どのように仲間づくりをすると良いのか市民館としてやり方などを示せると良い。一箱古本市のような事業を実行委員会形式で進めていくことも良い取組だと思う。

角田委員

試しに、麻生市民館らしい成人教室事業がどういうものかを考える。例えば要綱に「成人初期の課題や就労者等の地域参加などの課題に留意すること」とあるが、具体的にどういうことなのか、調査などを通じて考えてみないと分からないようなこともある。さらに、地域特性として、成人初期の課題となると、より分からなくなっていく。まずは、市民館・分館がそうした留意点について、どこまで把握しているのかを聞いたりして、進めていければ良い。広報は、今やっている事業のタネとなるようなアイデアが無いか、呼び掛けなどで膨らませられれば良い。個人的に気になっているのは、子どもの権利・子育ての孤立化などだが、成人教室の検討をしていくと繋がっていくような気もしている。

濱田委員

学校に行っていない子どもを地域社会としてどのように受け止めるか。地域全体で取り組むべき課題だと思う。そのための学びを始める機会に出来れば良い。

井上部会長

今回は、一箱古本市をどのように進めていくと良いのか、地域性を考慮した麻生市民館らしい事業のあり方、成人をどのように集めるか、仲間づくりなど、その辺りを審議して、提言としてこんな事業をやったら良いということに結び付けられればと思う。スケジュールなど前回の資料

があると思うので、次回の部会にて示してもらい、テーマ案について数字として出せれば良いかと思う。

角田委員

委員の連絡網を共有して貰うことは出来ないか。あと、傍聴人数について、2名としているのは何故か、増やせないかを知りたい。

井上部会長

連絡網は皆さんに御賛同いただければ進められるかと思う。

角田委員

急な提案なので、次回で結構です。

(3) その他

井上部会長

次第に記載の次回以降の予定について。

以上